

いたちかわらばん

通刊54号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 '11 夏号

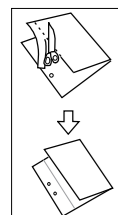


【宗森英夫】

【押切橋】(山手学院入り口)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



カルガモ親子の旅立ち

五月中旬の早朝、石原橋の上で散歩中の近所のご夫婦と会った。9羽の子ども連れのカルガモが下流に向けて行ったという。50m位先だという川面を眺めたが発見することができず、急ぎカメラを持って尾月橋の上からカルガモ親子の川下りを待ち伏せした。親ガモの姿が見えたが、小ガモは？、目を凝らしてよく見ると川縁のヨシを揺らしながら小ガモたちが列をつくって下ってきた。体長10cmに満たないと思われ、小さな小ガモたちは尾月橋の下を通過すると、カワセミを待つカメラマン達の絶好のターゲットとなりながら川を下っていった。

石原橋下の河川敷はいたち川のなかで比較的広い。洪水時の流木、廃棄物が貯まりやすい場所となっている。公田町に住むMさんは昨年の秋頃から、連日この河川敷に来て流木、山積する家庭ゴミからオオブタクサ等の雑草まで取り除き、河川敷をきれいに清掃した。そのため貧弱だったヨシが復活し、鳥たちに住みよい環境になったようだ。一人で黙々と清掃するMさんの姿は近隣の環境活動に良い刺激を与え波及効果も大きい。

その後、川を下った小ガモたちは、柏陽高校から警察学校近くの川でも確認されている。それから数日後小ガモたちは再び川を遡り再度尾月橋周辺で確認され、その元気な姿はいたち川を散歩する人々の目を楽しませている。カラスなどに襲われることなく全ての小ガモが無事に育つことを願ってやまない。(谷溪)

市民の森で田植えを体験

今年も田植えの季節がやってきました。荒井沢市民の森の一角に水田があります。市民の森入口のごくらく広場からカエル池に向かって歩くと、眼前に谷戸の奥まで少し傾斜して田んぼが3段になって見えます。

稲作は年間を通じて行い、春の訪れとともに始まります。初夏、会員が育てたみどり鮮やかな苗を公田小、桂台小の児童たちが授業の一環として植えにきます。昨年からは、栄区に本社のある(株)信光社の新入社員の方も研修として田植えにこられます。その後、夏の草取りなども行い、秋の収穫まで参加します。

「お米の自給率は何パーセントかな」という質問にすらすらと答える5年生、でも、田んぼの中に入ると、「ぬるぬるした感じだ」「足を持ち上げるのも重たいな」「おたまじゃくしがいるぞ」「トンボが飛んでいる」などなど、驚きの声があります。

足袋をはいて田んぼの中に入って気付くことがたくさんあるようです。田んぼの水は温かく、「足洗い場の山から流れてきた水は冷たいぞ」「どこに流れていくのかな」、彼らは全身の感覚を研ぎ澄ませてきます。もちろん苗の植え方も教えてもらい、作業も楽しかったようです。

小学生による田植えの行事が始まって9年、最初の田植えをした彼らは今どんなことを思い出すでしょうか。きっと荒井沢に来てみたいと思うでしょう。

(荒井沢市民の森愛護会 菅原恵美子)



(公田小学校の児童による田植え風景)

お米ができるまで

1. 籾(もみ)の根だし

籾を約2週間にわたり水につけて、籾の「根」が5mm位に育つまで毎日水を取り替えます。

2. 籾蒔き(もみまき)

①籾の根が5mm位に育つ間に、籾を蒔いて育てるための専用の場所を田んぼの中に作ります。この場所を「苗床」といいます。

②苗床に籾を蒔いた後、保温して育ちを良くするためにビニールシートを張ります。

③田植えの時には苗が10~15cm位に育っている必要があるため、田植え予定日の45日前に籾蒔きをします。

3. 畦切りと畦塗り

①田んぼの周りの細い道・通路を畦(あぜ)といいます。

②田んぼ側にあたる畦の土手を「くわ」で直角に削り取ります。この作業を「畦切り(あぜきり)」といいます。

③畦道に生えている雑草を取り除きます。

④削りとった畦の土手と畦道に、田んぼの土をこねあげて塗ります。この作業を「畦塗り(あぜぬり)」といいます。

4. 代掻き(しろかき)

田んぼに水を入れて土を細かく砕き、全体を平らにして田植えができる状態にします。この作業を「代掻き」といいます。

5. 田植え

10~15cm位に育った苗を一定の間隔に植えつけます。この作業を「田植え」といいます。

6. 雑草とり

田植え後、稲の育ちを良くするために、稲刈りまでの間に3回以上雑草とりを行います。これを一般的には「除草作業」などといいます。

その後、稲刈り、脱穀、籾摺り、精米と作業が続ぎ、おいしいお米が出来上がります。

(荒井沢市民の森愛護会 佐藤徳人)

発行年月
2011年6月

通刊54号

発行: 狹川 OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせは こちらまで)

尾月橋から眺めれば

いたち川にかかる橋で、本郷車庫に近い尾月橋は本郷台方面から散歩を楽しむ人々には折り返し点であり、この橋を渡る住民にとっては町の玄関口となる。

ここ数年、行政と周辺住民の連携により尾月橋周辺の環境が整ってきた。その特徴を尾月橋を中心に眺めてみよう。

● カワセミの生息

尾月橋の下流ではカワセミが観察できる。小魚をとる瞬間をカメラに収めようとするカメラマンたちのサロンとなっている。

● 石原橋周辺の花の小道

尾月橋の上流に小さな赤い橋が見える。この橋から尾月住宅や上郷市民の森に通じる小道は初夏のアジサイ、早春の梅など季節の花が楽しめる。森の清水がいたち川に流れ込む小さな沢にはサワガニも登場する。

この辺りのいたち川には鯉、サギ、ヘビ、カメなど多様な生物が生息している。

● 足をのばせば上郷市民の森

尾月橋上流に見える上郷市民の森は、春、秋の野草、紅葉、竹林など市民の憩いの場となっている。森には、富士山や丹沢が一望できる展望台もあり、富士山の真上に太陽が沈むがダイヤモンド富士が観察できる。



尾月橋から眺めれば

● みんなで作った「つつじ園」

尾月橋上流左岸の土手につつじ園が誕生する。この土手はキンケイギクの花畑として知られていたが、一時、花の世話ができなくなり、土手はあつという間に雑草に占拠された。

“尾月の玄関口を復活させよう”と近隣の住民が「尾月つつじ園水辺愛護会」を立ち上げた。行政が約120mの土手の中段に2本の散策道を創設し、水辺愛護会の呼びかけで近隣の住民たちがつつじの移植を行うことにした。

昨年6月、一段目の斜面に970本のつつじの苗を移植した。植樹イベントには、水辺愛護会、近隣の親子づれ、ボランティア団体、ボーイスカウト、80名が参加し、翌年の開花を待った。

昨年の夏は異常な日照りが続いたため、長いホースでの水やり、急斜面での雑草取りで若い苗木を保護した。つつじたちも頑張って20本ほど枯れたがほとんどの苗が根付いてくれた。そして今年、ちらほらと咲き出したつつじを見たとき、植樹に参加した関係者から歓声が上がった。みんなで作ったつつじ園のスタートである。

今年は二段目の整備に取り組んでいる。2～3年後には、尾月橋から眺めるつつじ園がいたち川の名所になるだろうか。夢はふくらむ。



上 斜面での植栽
左 施肥
右 夏のみずやり



童謡詩人、金子みすずが自分の町を愛でる詩を残している。

王子山から町見れば

わたしは町が好きになる
干かのおいもここへは来ない
若い芽立ちの香がするばかり。

「金子みすず全集」(JUL A出版局)より引用

尾月橋から眺めれば、

わたしは町が好きになる

上郷の美しい自然と大好きな町を子どもたちに残していきたいと願う。

(柴田 猛)



の植物が減少または消失しています。タコノアシやミクリなどの貴重な植物への影響も懸念され在来生態系への影響が危惧されています。

水・人・子(ミジンコ)

駆除すべき外来植物

戦後の日本経済の発達に伴って、外国からの輸入が増え、ペットとして飼われた生物が野生化して、日本在来種の生態に多くの影響を与えていることは言うまでもありません。そこで、国では「外来生物法」という法律で、他の在来種に対して特に悪い影響を与えている96種類を「特定外来生物」に指定し、積極的に駆除を進めています。植物で指定されているものは12種類。これらの特定外来生物に指定された植物は栽培、販売、譲渡などが原則禁止になっています。

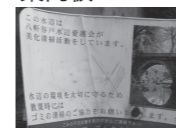
いたち川周辺でも多くの外来生物や外来植物が確認できます。①オオキンケイギク(写真)、②オオハンゴンソウ、③オオカワヂシャ、④アレチウリ、⑤ナルトサワギクの5種類は2006年に環境庁より駆除する植物として市町村に指示された植物です。オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、アレチウリは市内でも多く見かけます。特にアレチウリ以外は綺麗な花に魅せられて花壇や団地の法面でも見かけますが、移植したり増やすことをやめ駆除に努めましょう。強靱な性質のため野生化し、河川敷や道路にしばしば大群落をつくっており、河川敷固有



捨てられた事務用椅子



無残にねじ曲げられた案内板



先日も昇龍橋のところにスチール製の事務用椅子が捨てられていた。そして案内板も無残な姿に曲げられていた。ま、ストレスの多い時代だ。ときに何かを投げ捨てたり物に当たったりしたい気持ちになるのも分からないではない。しかし、ゴミや無残な姿の案内板は見る人に新たなストレスを生む。身の回りの社会を自ら住みにくくするようなストレスの発散は迷惑だけでなく、結局自分にも跳ね返ると思うのだが。(一竿)

散歩しながら野鳥や岸辺の植物を観察するのは楽しい。それに、ただ川の流れを見ているのも好きだ。大袈裟かもしれないが心が洗われるような気がするからだ。

そのお礼と云うわけではないが、月に一度いたち川の清掃に参加している。じつにいろいろなゴミが捨てられている。厄介なのは自転車・家電品などの大型のゴミだ。

マナーは他人(ひと)のためならず

栄区に来て六年余、毎日のようにいたち川を散策している。歩く場合もあれば自転車散歩の場合もある。自転車だと柏尾川の合流手前から瀬上池の下までの広い範囲を一時間ほど往復できる利点がある。